

第2回三重県総合交通ビジョン懇話会 資料1

第1回懇話会（平成25年10月21日）のふりかえり

◆総合交通ビジョン全体

- ・各懇話会での検討項目やスケジュール、全体のフローチャートを示すべきである。資料2
- ・20年後の自分を想像してもらうような提案
- ・自動車を運転しない人の交通手段が弱くなるという認識が必要
- ・人々は興味のある情報しか受け取らないという状況下でどのようにして情報発信するか

◆現状分析について

○交通事故について

- ・三重県内の交通事故の統計分析を行うべき → 三重県内の統計は少ないため記述P15

○高齢者の行動について

- ・75歳以上の交通行動分析をPTより行うべきP13
- ・75歳以上のメッシュでの人口分布のプロットP4 地域別人口 P2 P3

○県内外の交通行動

- ・通勤・通学での県内外の動きの把握P8 P10 物流

○中山間地域での交通行動実態

- ・買い物難民や買い物の実態、災害時の実態、危険箇所、通院実態などの把握P9

○経年変化

- ・道路の交通量の経年変化P20

◆課題について

- ・空間スケールで課題を仕分けするのではなく、人々の生活に根ざした視点での整理

◆方針について

○公共交通の方針について

- ・官民協働で取り組む姿勢が必要
- ・公共交通機関と大量輸送機関の区別
- ・地域公共交通の存続には行政からの補助金が不可欠

○情報提供について

- ・複数の交通機関に渡る一元的な情報提供

○自動車と公共交通の役割分担

- ・20年後の姿を可能な限り想定し、自動車と公共交通の適切な役割分担を検討すべき
- ・適切な使い分けができる程度までは、公共交通を促進し、自動車の利便性を下げる施策を採ってもよい

○自転車

- ・自転車交通も位置づけるべき

○災害

- ・地域間の相互連携を図ることができるような交通網の整備が必要

○広域交通

- ・三重県のみで整理するのではなく、地域生活圏の実態に合わせて広域的な視点で隣接府県との交通のつながりも含めて検討

○移動のあり方

- ・移動をどう捌くか以上に、どう地域を元気にするか、人々の生活を豊かにするかという視点が欠かせない
- ・早く安くだけではなく、移動の質の向上や移動を楽しむ、人生の満足度・幸福度を上げるという観点で考えていく。最終目標は県民の幸福度の向上